

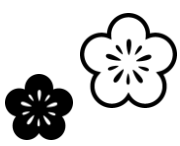
のぞいてみよう
堺市の生物多様性

メジロ

堺いきもの通信

2021 春号

堺いきもの通信では
堺のいきものや、生物多様性を
もっと多くの人に知ってもらうために
実際に堺市内で見られるいきものを
写真でご紹介します！



3月～5月に堺市内で見られる！



堺にすむいきものたちの

堺にすむいきものや彼らのすみかのことをどのくらい知っていますか？

ここでご紹介する写真はすべて堺市内で撮影された写真です！

Webサイト「堺いきもの情報館」に、市民の方などからご投稿いただきました。

個性豊かないきものたちや彼らのすみかを見て・知って、堺の生物多様性を感じてみてください。



ショウジョウトンボ



シュレーゲルアオガエル

冬はどのように
過ごしてたのかな？



チャバネセセリ



ニホンカナヘビ



ササユリ

色とりどりで
きれいだなー！



ムラサキツクサ



コシアキトンボ



ユリカモメ



生物多様性とは

「すべての生物の間に違いがあること」



たくさんの個性豊かないきものたちが、**つながり**をもって生きています。

堺市の生物多様性を知るには「堺にはいろんないきものがいて、いろんなすみかがある」と知るところから！

いきもの知りになろう！

～ 在来種と外来種の見分け方 タンポポ編～



カンサイタンポポ



セイヨウタンポポ

見た目がよく似ている「カンサイタンポポ」と「セイヨウタンポポ」をご紹介します。その名の通り、カンサイタンポポは関西に生育する**在来種**（昔からその地域にいるいきもの）で、セイヨウタンポポはヨーロッパ原産の**外来種**（よその地域から持ち込まれたいきもの）です。この2種は「総苞片（そうほうへん）という部分が反りかえっているかどうか」で見分けることができます。反りかえらないものがカンサイタンポポ、反りかえるものがセイヨウタンポポです。この総苞片を見るためには、タンポポを上からではなく横から見るのがポイント。みなさんの身近に咲いているのは…「何タンポポ」？



ナナホシテントウ



アリアケスミレ



ニホントカゲ

何をしている
ところなんだろう？



アカハラ



ヤマツツジ



ヒメヒオウギ

いきものたちのすみか

いきものたちは
どこにすんでいるのか？

ここでご紹介する多くの写真には
いきものの姿だけでなく、様々な自然環境が
写りこんでいます。草地や樹木の枝先、水辺
など、彼らのすみかは多種多様です。

堺市内には草地のある公園やため池、河川、
木々がしげる古墳や南部丘陵などといった
いきものたちのすみかがたくさん存在します。
みなさんの身近な場所にあるすみかにも
いろいろないきものたちがすんでいるはずですよ。

このように様々なすみかがあることを
生物多様性の一つである「生態系の多様性」
といいます。

生物多様性とは
身近なものなんですよ！



春と生物多様性のおはなし

冬が終わると草木は一斉に芽吹き始めます。タンポポやスマレ、ゲンゲ（レンゲソウ）などがつぼみをつけ、やがて花を咲かせます。その周りをチョウが舞い、ミツバチが飛びまわる、いわゆる“春の風景”。実はこの風景から**生態系サービス**の一例を知ることが出来ます。

チョウやミツバチなどの昆虫が植物の蜜を吸いにやってくると、彼らのからだには植物の花粉が付着します。そして花から花へと移る際、花粉と一緒に運ばれることで多くの植物は受粉し、実り、やがて次の芽吹きへと繋がっていきます。この花粉媒介こそが生態系サービスのうちの一つである「**調整サービス**」の一例なのです。

調整サービスとはすべてのいきものたちの過ごす環境を安定的に維持する機能のこと。間接的な恩恵が多く、我々が食す多くの作物も昆虫による花粉媒介に支えられています。恩恵を実感することは少ないでしょう。どこかで“春の風景”に出会えば、季節の訪れと共に生態系サービスを実感できるかもしれません。

参考文献：宮下直、瀧本岳、鈴木牧、佐野光彦著『生物多様性概論「自然のしくみと社会のとらえ」』朝倉書店、2017/3/10

堺市の生物多様性を考えるWEBサイト



さかい じょう ほう かん
堺いきもの情報館



Webサイト
トップページ



Instagram
アカウント

ユーザーネーム
sakai_ikimono

《編集・発行》

堺市環境局 環境保全部 環境共生課

TEL：072-228-7440 / FAX：072-228-7317

E-mail：kankyo@city.sakai.lg.jp